

お年寄りに 大のパートナー

広島獣医師会あっせん、好評です

飼い主に捨てられて安楽死させられる運命にある犬たちを、さびしい生活を送るお年寄りにあっせんする

の表情が明るくなったと地元では好評だ。

無責任な飼い主に捨てられたり、放置される動物は後を絶たず、同県動物愛護センター(豊田郡本郷町)では、去年一年間に犬一万五

百六十七匹、猫五千五百九十四匹を安楽死処分した。

同獣医師会は約百二十万

円の予算で去年夏から神石郡四町村と佐伯郡佐伯町、湯来町であっせんを始め

た。対象は原則として七十歳以上の一人暮らしか、老人だけの家庭。

すでに三十八匹の犬が「第二の人生」を新しい飼い主とともに送っている。

オスのビーグル犬がやって

きた神石郡油木町野田丸の横山太郎さん(七〇)方では、妻の文子さん(七三)が「甘えん坊で、まるで息子みたい。いたずらザルを追いかけてもくれるし、いまでは

あっせんも考えている。

同獣医師会は、対象地域を広げ、犬だけでなく猫の

頭をなでる。

立派な家族の一員です」と、ボチと名づけた愛犬の

頭をなでる。

「息子ができたみたい」と目を細めるお年寄り

＝広島県神石郡油木町で

「息子ができたみたい」と目を細めるお年寄り

＝広島県神石郡油木町で

「息子ができたみたい」と目を細めるお年寄り

「息子ができたみたい」と目を細めるお年寄り

「息子ができたみたい」と目を細めるお年寄り

「息子ができたみたい」と目を細めるお年寄り

「息子ができたみたい」と目を細めるお年寄り

「息子ができたみたい」と目を細めるお年寄り



「息子ができたみたい」と目を細めるお年寄り

＝広島県神石郡油木町で